

解 答 速 報

福岡大学 医学部(推薦) 英語

2021年 11月28日実施

〔I〕

(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
22	23	24	25	26	27
9	7	8	2	6	4

〔II〕

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
28	29	30	31	32	33	34	35
3	2	3	4	1	1	4	2

〔III〕

(a)	(b)	(c)	(d)
36	37	38	39
2	4	1	3

〔IV〕

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)
A	40	41	42	43	44	45
	5	7	2	3	6	4
B	46	47	48	49	50	51
	4	7	1	5	3	6
C	52	53	54	55	56	57
	6	3	5	2	1	7
D	58	59	60	61	62	63
	3	5	1	7	6	4

〔 I 〕

(A) : On the face of it, that **(seems like a great advantage)** for other species, but in fact it implies a limitation.

冒頭の“On the face of it”に含まれる代名詞 it の指す内容は第1段落最終文の内容を受けている。「自然界の至る所で、私たちの仲間の動物たちは、生後すぐに著しく自立して生活している」。この事実を巡って、but の前では肯定的側面、後では否定的側面が言及されていると予想できる。9. の選択肢を入れることで「そのことは他の生物種にとっては大きな利点に思われる」となり、but 以下の「ところがそのことは実際には限界を意味している」という内容とうまく対比が成り立つ。

(B) : It would **(have no capacity to adjust)**, which is one reason we don't find rhinoceroses in those areas.

第2段落第4文における仮定「サイが本来の生息地以外にいたとしたら」に対する帰結の部分である。空所(B)には否定的内容が必要だと予想できる。7. の選択肢を入れることで「サイは適応する能力を全く持たないだろう」となり、関係詞節内の内容「それがそれらの地域でサイを見かけない一つの理由である」と矛盾なくつながる。

(C) : In contrast, humans are able to **(succeed in many different environments)**, from the frozen regions of the Earth to the high mountains to the urban centers.

第2段落では「動物は生まれた当初から自立して生活可能であるが、それは柔軟な適応力を犠牲にしたものである」という内容が述べられていた。「それとは対照的に」という書き出しから、空所(C)にはヒトの適応能力の高さが言及されていると予想できる。8. の選択肢を入れることで「～、ヒトは多種多様な環境でうまく生存することができる」となる。

(D) : Instead **(of arriving with everything)** ready, a human brain allows itself to be shaped by the details of life experience.

“Instead (D) ready”全体で副詞句を構成する必要がある。よって空所(D)の直後には of があるはずだと予想できる。<instead of ~> は「～ではなく」という意味であるので、2. の選択肢を入れることで「あらゆるものを備えて生まれてくるのではなく」となり、主文で述べられているヒトの脳のもつ特性と矛盾なくつながる。

(E) : It's not about **(growing new cells)**. In fact, the number of brain cells is the same in children and adults.

第4段落冒頭の疑問文、“What's the secret behind the flexibility of young brains?” 「ヒトの幼い脳の持つ柔軟性を理解する鍵は何なのか」に対する解答を述べた部分である。6. の選択肢を入れることで「それは新しい細胞を成長させることとは関係ない」となり、直後の第3文「実際、脳細胞の数は子供でも大人でも同じである」と述べられていることと矛盾なくつながる。

(F) : Instead, the secret lies in **(how those cells are connected)**. At birth, a baby's nerve cells are relatively separate, and in the first two years of life they begin connecting up extremely rapidly as they take in information.

空所(F)と連動する部分である。冒頭に“Instead”が置かれているので、新しい細胞を増やすことが柔軟性を生む要因となっているのではないとしたら、何がその要因なのかを述べていると予想できる。4. の選択肢を入れることで「そうではなく、その理解の鍵はそれらの細胞がどのように結合するのか、という点にある」となり、第5文以降の「生後2年間で結合の数が激増する」という内容と矛盾なくつながる。

- 〔II〕 (a) 3 ~ ***to beat** a game of chess.
 → beat は「(人・チームなどを) 打ち負かす」という意味で用いるため、“a game of chess”のような「試合、大会」などを目的語にとることができない。
- (b) 2 ~ one that ***would be expecting**.
 → expect は他動詞であるため、現在分詞で用いる場合は目的語が必要。また、expecting を単独で用いる場合は「(人が) 妊娠している」という意味になる。
- (c) 3 ~ the gallery visitors ***were in no doubt** the artist’s skill.
 → “in no doubt” は副詞句であり、この部分を除いて考えると“the gallery visitors = the artist’s skill”という関係になってしまい、不適切である。なお、“be in no doubt that S V ~”で「～を確信している」という表現も併せて押さえておくと良い。
- (d) 4 Some varieties of cheese are ***storing** for ~.
 → store は他動詞で「～を蓄える」という意味であり、現在分詞で用いる場合は目的語が必要。
- (e) 1 Please ***sign all means** your name ~.
 → sign は他動詞で「～に署名する、～を書く」という意味であるが、名詞“all means”を目的語とすると、直後にさらに名詞“your name”が続き、構造的に不適切。
- (f) 1 ~ is that of children ***dressing up** costumes.
 → dress を他動詞で用いる場合は、「(人に) 服を着せる」という意味になり、現在分詞で用いる場合は目的語として「人」を書く必要がある。ここでは children の後置修飾としてふさわしい形にする必要があるため、過去分詞 dressed とすべきである。なお、動詞の dress は“be dressed (up) in ~”「～を着用している」という形でしばしば用いられる。
- (g) 4 ~ a woman who ***alleged** the suspect of the crime.
 → allege の語法を問う問題であるが、目的語には that 節または「事実」にあたる名詞が置かれ、「～を主張する、断言する、申し立てる」という意味になる。したがって、suspect 「容疑者」を目的語にとるのは不適切。
- (h) 2 A great deal of determination ***is challenging** to finish ~.
 → 動詞の challenge は他動詞で「～に異議を唱える、挑む」という意味であるが、直後に不定詞を目的語にとることはできない。また、challenging を単独で用いる場合は「やりがいのある、骨の折れる」という意味にもなるが、ここでは文意を成さない。
- 〔III〕 (a) 2 prestige [í:] と同じものは speaker
 1. enemy [é] 3. existence [í] 4. survival [ái]
- (b) 4 mobile [óu] と同じものは robot
 1. profit [ó] 2. molecule [ó] 3. remind [ái]
- (c) 1 register [é] と同じものは offend
 2. admit [í] 3. index [í] 4. regional [í:]
- (d) 3 politics [ó] と同じものは nominate
 1. refrigerator [í] 2. dormitory [ó:] 4. undergo [óu]

〔IV〕 A. 5 7 2 3 6 4

Only after I turned 20 did I **start going over** my life to see **what had gone wrong**.

go over ~ 「～を調べる、再点検する」 go wrong 「失敗する、駄目になる」 start doing ~ 「～し始める」

否定語による倒置が発生しており、主語である I の直前に did があるため、(a) には動詞の原形が入る。

B. 4 7 1 5 3 6

Whether you choose your clothes for design, function, or comfort, it is important to find pieces **you really want that will meet** your needs for a long time.

meet one's need(s) 「～の要求を満たす」

前半で副詞節を作る必要がある。(b)には you choose を入れることになる。これで節内は SVO が成立するため、冒頭には whatever (= no matter what)ではなく、whether を用いなければならないことがわかる。ここでは pieces を先行詞とする関係詞節が2つ連なっている(二重限定)。この場合、最初の関係詞は省略可能だが、二番目の関係詞は必要である。

C. 6 3 5 2 1 7

Twice as much **food as previously estimated** is wasted, **with people in wealthier countries wasting more**.

twice as much food as ~ 「～の2倍の食料」

選択肢に動詞がないことから、with O C という付帯状況を表す表現を思いつくかがポイント。

D. 3 5 1 7 6 4

As might have been expected, he came **up with** a unique idea.

as might have been expected 「事前に予想されたことであつたかもしれないが」

as は he came up with ~ の内容を指す関係代名詞。

come up with ~ 「～を思いつく」

講評

- | | | | |
|-----|-----------|-------|--|
| I | [長文空所補充] | (やや易) | 「ヒトの脳の可塑性」に関する英文。確実に選択肢を決められる良問。 |
| II | [文法四択] | (標準) | 「適していないもの」を選ぶ問題。一部、正誤の判断に迷うものもあるが、動詞の語法の観点から確実に正答を絞り込めるかどうかポイント。 |
| III | [発音アクセント] | (やや難) | アクセントのある母音の発音の異同を問う形式。外来語と実際の英単語との発音アクセントの差異についての問いが目立つ。昨年度より難化。 |
| IV | [語句整序] | (やや難) | 否定語を文頭に置く倒置、二重限定、付帯状況の with、関係詞の as など、単なる語彙力だけでなく文構造に関する英文法の知識が求められる。 |

〔II〕が「適していないもの」を選ぶ問題に戻ったことでやや難化。〔III〕や〔IV〕もやや解きにくい問題があり、全体として昨年度より難化。目標は75%

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで